

第10回 BELCA賞ベストリフォーム部門表彰物件

太田市立休泊小学校

所在地：群馬県太田市龍舞町3816-3

用途：小学校

竣工：1974年

改修：1999年

所有者：太田市

改修設計者：田中雅美・岩本弘光・白江龍三・宮崎 均

改修施工者：石橋建設工業株式会社



本件は昭和40年代に全国一律に建築された典型的な標準型鉄筋コンクリート造3層の学校建築のリニューアル事例である。阪神大震災の後、全国的な学校建築の耐震改修という流れの中で計画されたのであるが、安易なブレースによる補強のみに終わらせず再生を目指した所有者・設計者の姿勢と小学校というむづかしい施工環境の中、手造りに近い施工を無事に完了した施工者の努力が高く評価されたものである。学校建築の耐震改修は通常窓面に巨大なブレースを設け、中で生活する児童・教職員の環境を考えない耐震改修のためだけの改修となってしまうがちなところを（校舎としての総合性能的には改悪ともいえるような）、児童の個性や自主性を考慮した今日の教育スタイルの変化への対応という計画面と耐震改修という基本性能面を両立させるべく、アタッチドフレーム工法という建物外部に補強用のフレームを付加する耐震改修手法を考案し、実施した学校建築の前向きなりリニューアルとしてよく考えられた手堅い改修との評価を得た。

計画面では、アタッチドフレーム工法の採用と構造上の障害であった腰壁を撤去しスライディングドアとすることによりオープンスクール的な廊下・教室・テラスとつながる空間の相互性・回遊性を創り出し、開放的で明るい空間を実現している。教室後方にワークスペース的な利用を考慮したアルコーブを設けていることも興味深い。旧階段室と便所のコアを吹抜けのある鉄骨階段に改修しており、縦方向への明るい開放的な空間となっている。便所は増築部分に移設しており明るく使いやすい環境を実現している。1Fにおいては部分的な増築をうまく組み合わせることによりオープンな職員室・特別活動教室をつくり出し、上部は奥行き深いルーフバルコニーとしてうまく利用されている。以上のように旧建物の構造的な弱点を創意と工夫により積極的に蘇生させた斬新な建築計画は評価に値する。

耐震改修手法としてのアタッチドフレーム工法について構造家の間では性能面で疑問があるとの声もあったが、積極的な議論が行われているようでその姿勢を評価したい。今後のためにもより突っ込んだ議論を望みたいものである。

以上、学校建築のブレースによる安易な耐震改修に一石を投じた意味は大きいと高く評価されたのではあるが、改修後約1年半を経過した時点での現地審査においてもかなり傷みの目立つところも多く、折角のリニューアルをより長く活用していくためにも維持管理・長期修繕計画について予算の関係もあると思うが、もう少し考慮していただきたいものである。何よりも現地審査の際の児童・教職員の生き生きとした表情が本リノベーションの評価を物語っていると思う。